

平成22年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

－西南暖地における早期栽培等の作柄は、「やや不良」の見込み－

【調査結果の概要】

西南暖地における早期栽培の作柄は、4月の低温・日照不足による分けつの抑制や6月中旬以降の日照不足の影響から、高知県及び鹿児島県において、「やや不良」が見込まれる。

沖縄県の第一期稲の作柄は、4月以降の日照不足等の影響から、「やや不良」が見込まれる。

表 平成22年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

区 分	平 年 比 較					田 植 期				出 穂 期				出 穂 済 面 積 割 合 %		
	作柄の良否	穂数の多少	一穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		始 期	最 盛 期	終 期		最盛期の比較	
									対 平 年	対 前 年					対 平 年	対 前 年
高 知	やや不良	少ない	やや多い	少ない	やや良	4. 2	4. 11	4. 21	0	2	7. 3	7. 11	…	5	6	84
鹿 児 島	やや不良	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	3. 25	4. 2	4. 13	△ 1	△ 1	6. 24	6. 30	7. 9	2	4	98
沖 縄	やや不良	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	2. 16	3. 3	3. 22	1	3	5. 3	5. 15	5. 27	△ 6	0	100

- 注：1 本表で用いた「作柄の良否」の「やや不良」は、作況指数95～98に相当する。
 2 「最盛期の比較」欄の「△」は、平年（前年）より早いことを示している。
 また、「対平年」は前5か年の平均値との比較である。
 3 出穂期「終期」の欄の「…」は、7月15日現在でその期日に達していないためである。
 4 全国の水稻作付面積に占める本表の3県における早期栽培等の割合は、平成21年産で0.9%となっている。

○ 西南暖地における早期栽培等とは、南四国及び南九州の地域で、主に台風による被害を避けるため8月中旬頃までに収穫する栽培方法及び沖縄県における二期作の第一期稲である。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧いただけます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、及び米穀の需給見通しのための基礎資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための基礎資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための基礎資料
- ・ 水田・畑作経営所得安定対策（品目横断的経営安定対策）において収入減少影響緩和交付金算定のための基礎資料

◎関連データ

累年統計表

1 西南暖地における早期栽培等の収穫量の推移

区 分	平成16年産			17			18		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
高 知	59 000	39 500	67	65 500	40 700	62	59 600	36 900	62
鹿 児 島	114 100	29 900	26	120 500	29 200	24	111 400	27 600	25
沖 縄	3 090	2 470	80	3 000	2 330	78	3 030	2 450	81

区 分	19			20			21		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
高 知	62 100	37 400	60	67 000	40 900	61	63 500	39 400	62
鹿 児 島	115 600	18 700	16	122 500	27 800	23	122 000	27 000	22
沖 縄	2 880	2 470	86	3 160	2 620	83	2 890	2 380	82

2 西南暖地における早期栽培等の10a当たり収量の推移

区 分	単位 : kg					
	平成16年産	17	18	19	20	21
高 知	489	491	446	456	509	491
鹿 児 島	458	459	435	298	467	466
沖 縄	362	332	363	356	382	351

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

西南暖地における早期栽培等の調査対象県は、8月中旬頃までに刈り取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める南四国の徳島県、高知県、南九州の宮崎県、鹿児島県及び二期作のうちの第一期稲の沖縄県としている。

なお、徳島県については7月15日現在の出穂済み面積割合が低く、穂数、もみ数等の作柄を判断する項目の調査が終了していないことから、表記していない。また、宮崎県については、口蹄疫の感染拡大防止の観点から、7月15日現在の調査は行っていない。

3 調査対象数

作況標本筆調査:305筆 作況基準筆調査:44筆 巡回・見積り:168市町村

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

5 調査期間

7月15日現在で水稲の生育・作柄概況を調査した。

6 調査方法

調査は、作況標本筆、作況基準筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

- (1) 「穂数の多少」は、1㎡あたりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (2) 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「全もみ数の多少」とは、1㎡あたりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。

- (5) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較である。
- (6) 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植え及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
- (7) 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

9 利用上の注意

本調査（7月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

米関係ページ：農林水産省＞食料 <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
農林水産省＞生産 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

米政策関連ページ：<http://www.maff.go.jp/j/soushoku/jyukyu/komeseisaku/>

全国米穀取引・価格形成センター：<http://www.komekakakucenter.jp/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：03（3502）5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画課 広報普及班
電話：03（6744）2037